

勿凝学問 237

さながら、社会保障政策論の暗黒時代ってところだな

2010年7月19日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

先日、大学の研究室で、(頼んでいるものと頼んでもいないのに) 定期的に送られてくる専門雑誌、業界新聞を、暇だったもので、のんびりと眺めていた。そして、しみじみと思ったことは、今はさながら、社会保障政策論の暗黒時代ってところだなということ。というのも、目にした年金、医療、福祉関係の雑誌・新聞に書かれている専門家たちの言っていることはただ一つ、「なんで抜本的な改革が必要なんだ。マニフェストに書いてしまったから、はたまた自民党がやったことをリセットしたい、というそれだけの理由で、せつかくの良いものを壊すというバカなことは止めようよ」ということ。

日本中のまじめな研究者を、「バカなことは止めようよ」と言わせるだけの存在に墮落させている今の時代。僕が、あらゆる原稿依頼やインタビューを断っていることも、数年前のように僕ひとりがそういうことを言うのならばまだしも、今の時代、引き受けたとしても僕もみんなと同じことを言うだけで、そうした非生産的なことは、僕の仕事ではなく、他のことをして遊んだほうがましだと思っているからでもある。

と書いていて、そう言えば、「[勿凝学問 324 厚労省が「みんなの年金」とかいう意見交換会をやるらしいぞ—ならば一言、管理が一本化されていれば、一元化なんて必要ないのではないのでしょうか?](#)」を書いたときに、官庁訪問真っ最中の学生が、ゼミの掲示板に次の書き込みをしていたことを思い出した。

『掲示板』に投稿がありました。

時間:2010/07/10(土) 02:04

題名:

Re:☆ Respose of 連絡板 ☆

内容:

>勿凝学問 324

>誰か僕に代わって、「なぜ大きな制度改革が必要なんですか？」と聞いておいてくれ。

厚労省の年金の官僚にそれを聞いて、迷惑をかけた記憶がよみがえりました・・・(汗)
こういうのに付き合わされる官僚は大変だなと思いました。

民主党は無駄削減をあれだけ叫びながら、貴重な労働力を無駄にしている気がしません。

去年の「衆愚選挙」・「詐欺選挙」で勝利した、国民からの人気とりには血道をあげるが政策に関してはド素人の政治家たちによる「政治主導」という名の下、さらに政権交代後1年近く経った今は（野党時代の自分たちの言動に起因する）「経路依存性」という社会法則に苦しめられている政界からの圧力の下、生産的な政策論を行う意味が全くなくなっている今の時代、官僚、研究者などなど、貴重な労働力が、いま完全に無駄遣いされているわけだ。社会保障政策論の暗黒時代——なんだか、このままずっと続くんじゃないのかな(笑)。

でっ、官庁訪問の最中、僕のゼミの学生だということはバレないように・・・。

おまけ

次の文章の中の、「民主党案を支持してきた学者・研究者の中にも、発言を控え、難しさを口にする人が増えてきた」はおもしろいな。まあ、民主党案がどのような問題をかかえているのかを事前に予測できないような人は、本当は、学者でも研究者でもないんだけどね。

- [「新制度の基本方針案」](#)『年金実務』平成22年6月28日号